



2022年3月期 決算説明

2022年5月11日

 **ダイダン**株式会社

目次

連結業績サマリー

通期決算ハイライト

2023年3月期通期業績予想

中期経営計画の進捗状況

サステナビリティへの取り組みについて

〈参考〉 DATA FILE

2022年3月期
通期決算

連結業績サマリー

連結経営指標等（経営成績）の概要

(単位：百万円)

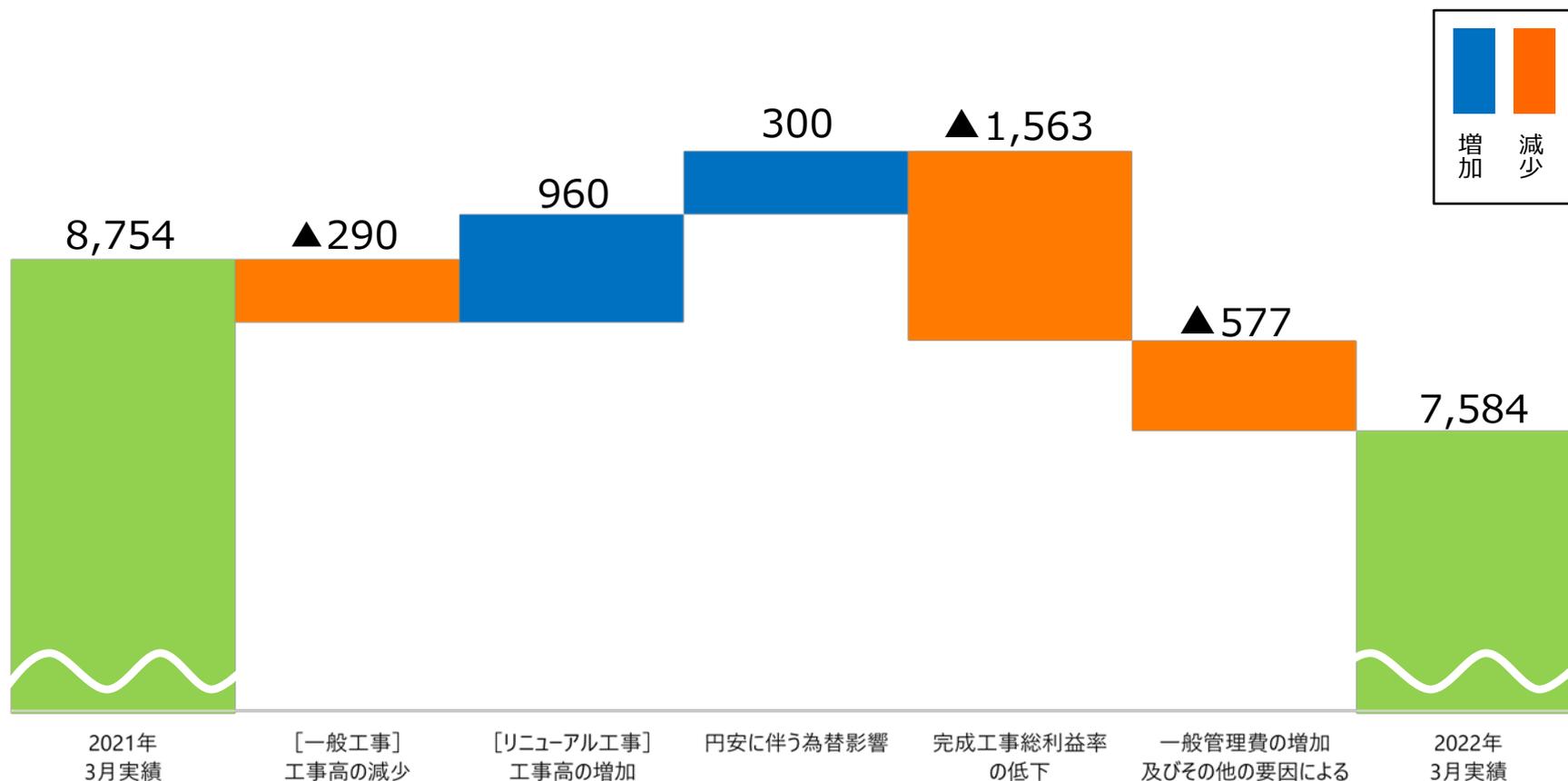
	2021年3月期	2022年3月期	増減	増減率	主な増減要因・特記事項
期首繰越工事高	124,228	143,043	18,814	15.1%	
受注工事高	176,526	183,668	7,141	4.0%	大型工事を中心に受注が増加
完成工事高	157,712	162,929	5,217	3.3%	受注工事の増加などを受け、特に第4四半期に工事が進捗したことにより増加
完成工事総利益	21,521	20,723	▲798	▲3.7%	完成工事総利益率の低下
完成工事総利益率(%)	13.6%	12.7%	▲0.9p		
営業利益	8,754	7,584	▲1,169	▲13.4%	完成工事総利益の減少
営業利益率(%)	5.6%	4.7%	▲0.9p		
経常利益	9,262	8,095	▲1,167	▲12.6%	営業利益の減少
経常利益率(%)	5.9%	5.0%	▲0.9p		
親会社株主に帰属する当期純利益	6,318	5,778	▲540	▲8.6%	
当期純利益率(%)	4.0%	3.5%	▲0.5p		
1株当たり当期純利益 (EPS)	291.96円	270.16円	▲21.80円	▲7.5%	
株価収益率 (PER)	10.1倍	7.8倍	▲2.3倍	—	(参考) 2021年3月 株価終値：2,963円 2022年3月 株価終値：2,099円
自己資本当期純利益率 (ROE)	8.9%	7.6%	▲1.3p	—	
総資産経常利益率 (ROA)	7.3%	6.0%	▲1.3p	—	

事業環境

- 受注工事高は、前期は新型コロナウイルス感染症の影響により、リニューアル工事全体が減少しましたが、当期は医療施設、首都圏の再開発案件および産業施設案件を中心に大型工事の受注が好調に推移しました。またリニューアル工事の大・中規模案件が順調に進捗し、完成工事高も増加しました。
- 損益面については次ページの通りです。

連結営業利益減少の内訳

(単位：百万円)



- 一般工事の利益減少は、前期と比べ大型工事の完成工事高が減少したことにより。一方で、リニューアル工事の利益増加は、特に工場の大・中規模案件の完成工事高が増加したことにより。
- 完成工事総利益率は、受注競争の激化や資機材価格の高騰、また手持ち工事のうち、当期に竣工を迎える物件が少なく、竣工間際の利益改善や追加工事が減少したことにより低下し、減益となりました。

連結部門別工事高の推移

(単位：百万円)

		2021年3月期	2022年3月期	増減	増減率	主な増減要因・特記事項	
受注工事高	電気工事	27,236	27,254	17	0.1%		
	管工事	空調工事	104,878	117,966	13,087	12.5%	オフィス・病院・産業施設案件の受注増
		水道衛生工事	44,410	38,447	△5,963	△13.4%	大型工事の受注において空調工事が相次いだため
	小計	149,289	156,414	7,124	4.8%		
合計		176,526	183,668	7,141	4.0%	増加要因は10～12ページの通り	
完成工事高	電気工事	24,865	25,676	810	3.3%		
	管工事	空調工事	96,526	98,270	1,744	1.8%	
		水道衛生工事	36,320	38,982	2,662	7.3%	
	小計	132,846	137,253	4,406	3.3%		
合計		157,712	162,929	5,217	3.3%	増加要因は13ページの通り	
繰越工事高	電気工事	21,884	23,462	1,577	7.2%		
	管工事	空調工事	85,938	105,634	19,696	22.9%	
		水道衛生工事	35,220	34,685	△535	△1.5%	
	小計	121,158	140,319	19,161	15.8%		
合計		143,043	163,782	20,738	14.5%	前期末の繰越工事増加、当期の受注工事増加	

- 受注工事高および完成工事高ともに増加となり、特に受注工事高は24年ぶりに1,800億円を超えました。
(詳細は9ページ以降に記載しております。)
- 前期と比較し、受注工事高の増加が完成工事高の増加を上回り、繰越工事高は大きく増加しております。
- 空調工事と水道衛生工事の合計として管工事の区分を設けております。

連結経営指標等（財政状態）の概要

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	増減	増減率	主な増減要因・特記事項
純資産	74,837	77,242	2,404	3.2%	利益剰余金の計上など
総資産	132,210	139,099	6,889	5.2%	受取手形・完成工事未収入金等の増加による
1株当たり純資産 (BPS)	3,491.84円	3,603.11円	111.27円	3.2%	上記、「純資産」の増加の通り
株価純資産倍率 (PBR)	0.85倍	0.58倍	－	－	(参考) 2021年 3月 株価終値：2,963円 2022年 3月 株価終値：2,099円
自己資本比率	56.4%	55.4%	▲1.0p	－	

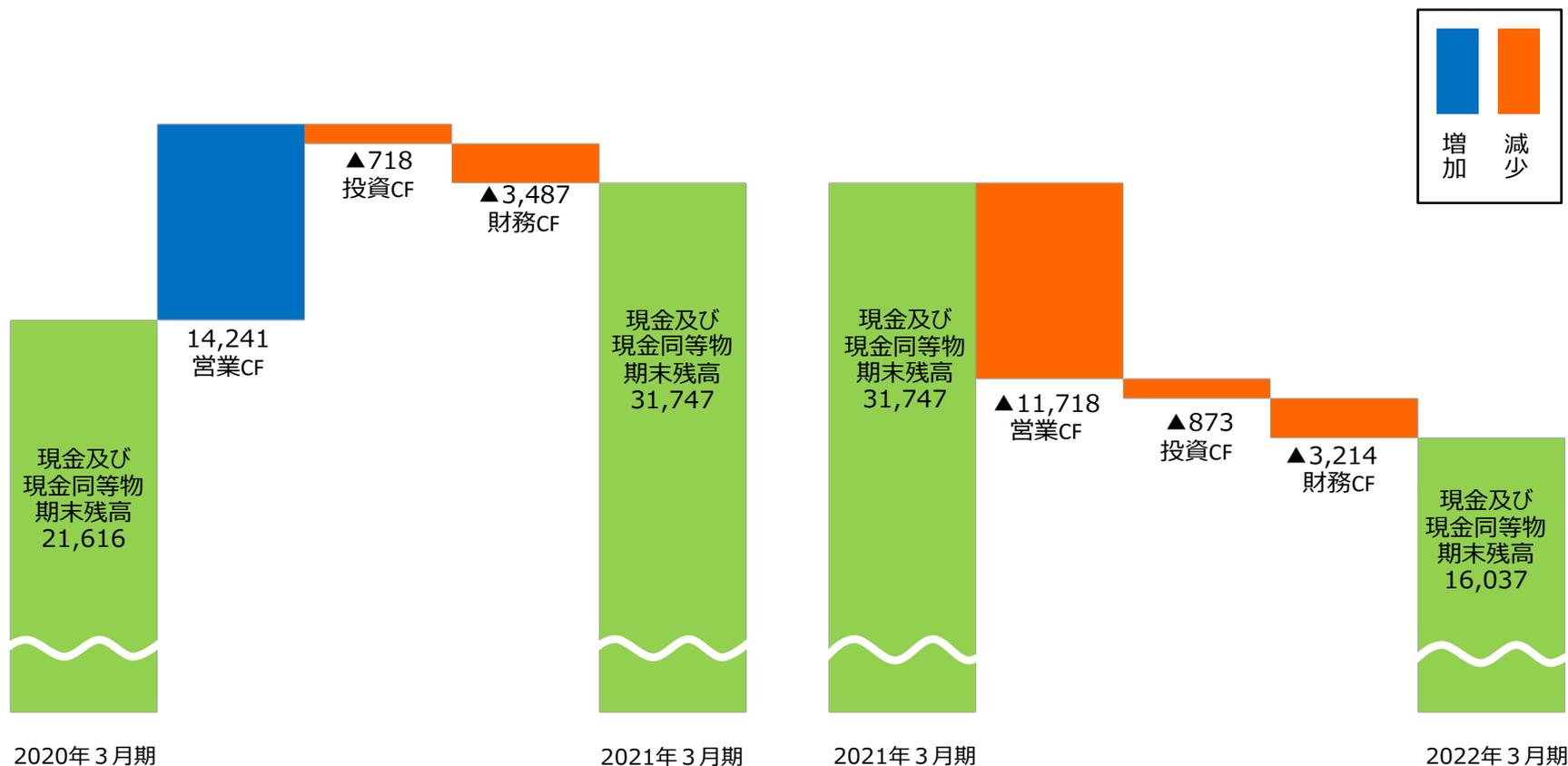
連結経営指標等（キャッシュ・フロー）の概要

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	増減	増減率	主な増減要因・特記事項
営業活動によるCF	14,241	▲11,718	▲25,960	－	当期純利益が前期に比べて減少、及び売上債権の増加等の資金の減少要因が資金の増加要因を上回ったことによる
投資活動によるCF	▲718	▲873	▲154	－	北海道支店・北陸支店の建替、新規事業のための出資
財務活動によるCF	▲3,487	▲3,214	272	－	配当金の支払
現金及び現金同等物の期首残高	21,616	31,747	10,131	46.9%	
現金及び現金同等物の増減額	10,131	▲15,710	▲25,841	－	
現金及び現金同等物の期末残高	31,747	16,037	▲15,710	▲49.5%	

キャッシュ・フロー前期比較（現金及び現金同等物期末残高の推移）

（単位：百万円）



- 当期の手持ち工事において完成引渡しを迎える物件が少なく、支払いが先行し営業CFはマイナスとなりました。
- 運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と貸出コミットメントライン契約を締結しております。

2022年3月期
通期決算

通期決算 ハイライト

リニューアル・直接・官庁工事の状況

(単位：百万円)

	2021年3月期			2022年3月期			前年同期比		主な増減要因・特記事項
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減	増減率	
リニューアル工事	39,731	38,022	77,754	49,326	39,898	89,224	11,470	14.8%	主に工場の大・中規模案件の受注による
リニューアル比率(%)	46.9%	41.4%	44.0%	45.9%	52.3%	48.6%			
大規模・中規模の改修工事	23,805	21,830	45,635	33,014	21,591	54,605	8,969	19.7%	
小規模の改修工事	15,926	16,192	32,118	16,312	18,307	34,619	2,500	7.8%	
一般工事	44,924	53,846	98,771	58,096	36,346	94,443	▲4,328	▲4.4%	
受注工事高合計	84,656	91,869	176,526	107,423	76,245	183,668	7,141	4.0%	
うち、直接受注	30,097	38,639	68,736	50,524	36,460	86,985	18,249	26.5%	大型の病院、工場の案件受注による
直接比率(%)	35.6%	42.1%	38.9%	47.0%	47.8%	47.4%			
うち、官庁工事	10,590	15,718	26,309	21,127	10,275	31,403	5,093	19.4%	上記の病院案件受注による
官庁比率(%)	12.5%	17.1%	14.9%	19.7%	13.5%	17.1%			

- リニューアル工事は、前期は新型コロナウイルス感染症の影響により減少しましたが、当期は工場の大・中規模案件の受注が好調であり増加しました。
- 直接受注においても、大型の病院、工場の案件を受注し、また、大型の病院案件が官庁工事であったため、直接受注、官庁工事とも前期と比べ大幅に増加しました。
- リニューアル工事の5カ年の推移は34ページに記載しております。

産業施設工事の状況

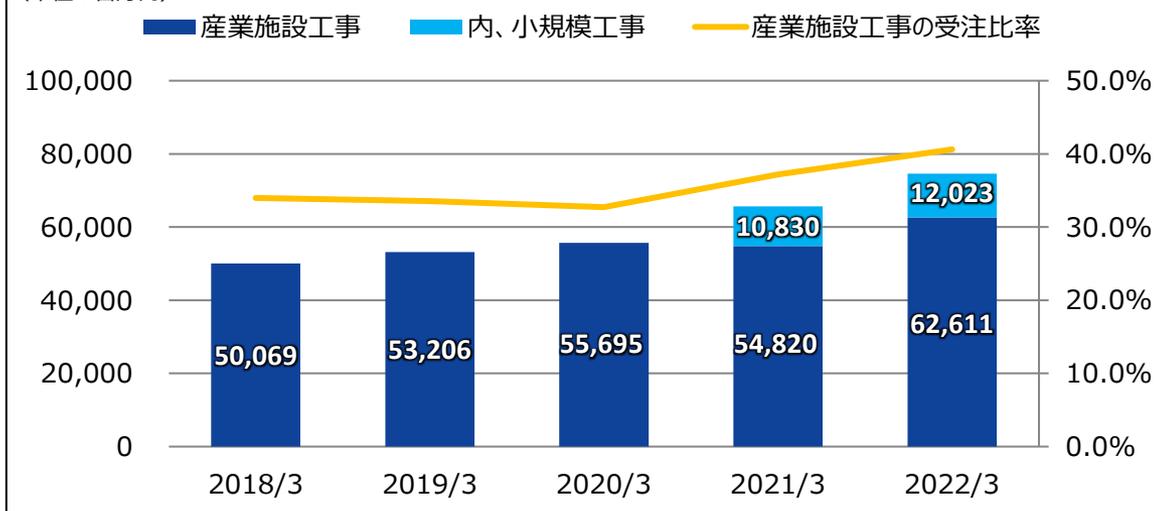
(単位：百万円)

	2021年3月期			2022年3月期			前期比		主な増減要因・特記事項
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	増減	増減率	
産業施設工事合計	27,434	38,215	65,649	37,090	37,543	74,633	8,984	13.7%	大型の工場、物流施設の案件受注による
(受注比率%)	32.4%	41.6%	37.2%	34.5%	49.2%	40.6%			
受注工事高合計	84,656	91,869	176,526	107,423	76,245	183,668	7,141	4.0%	

※工場、研究所、データセンター、物流施設を「産業施設」として区分しております。

産業施設工事の通期受注工事高の推移

(単位：百万円)



- 産業施設工事は、2015年の開示以来、過去最高の受注となっております。
- 半導体やECの需要拡大を受け、設備投資の需要が回復し、特に大型の工場、物流施設の案件受注などにより前期比で増加となりました。

※当期より工事区分の見直しを行った結果、一部の小規模工事を産業施設工事に含めております。
なお前期についても区分の見直しを遡って適用した後の数値を表示しております。

海外事業の状況

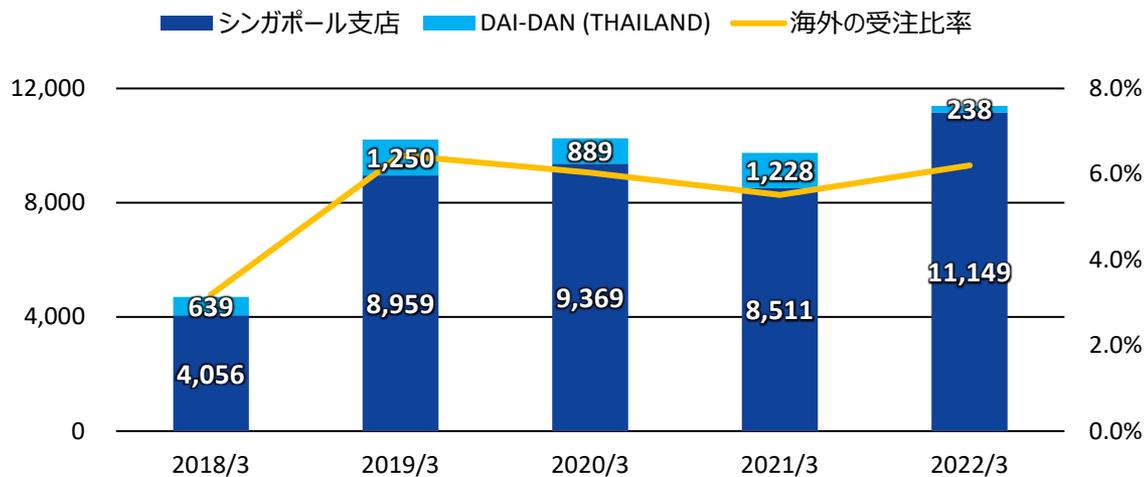
- 海外事業は、シンガポール支店とDAI-DAN（THAILAND）を中心に活動しています。
- 新たな海外拠点として、2020年度にDAI-DAN（VIETNAM）Co.,LTD.（ベトナム）、2021年度にDAI-DAN INTERNATIONAL ASIA PTE.LTD.（シンガポール）、2022年度に台湾大暖股份有限公司（台湾）を設立しました。

（単位：百万円）

	2021年3月期			2022年3月期			前期比		主な増減要因・特記事項
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	増減	増減率	
海外受注工事合計	5,043	4,695	9,738	6,449	4,937	11,386	1,647	16.9%	産業施設関連の受注が増加
（受注比率%）	6.0%	5.1%	5.5%	6.0%	6.5%	6.2%			
受注工事高合計	84,656	91,869	176,526	107,423	76,245	183,668	7,141	4.0%	

海外の通期受注工事高の推移

（単位：百万円）

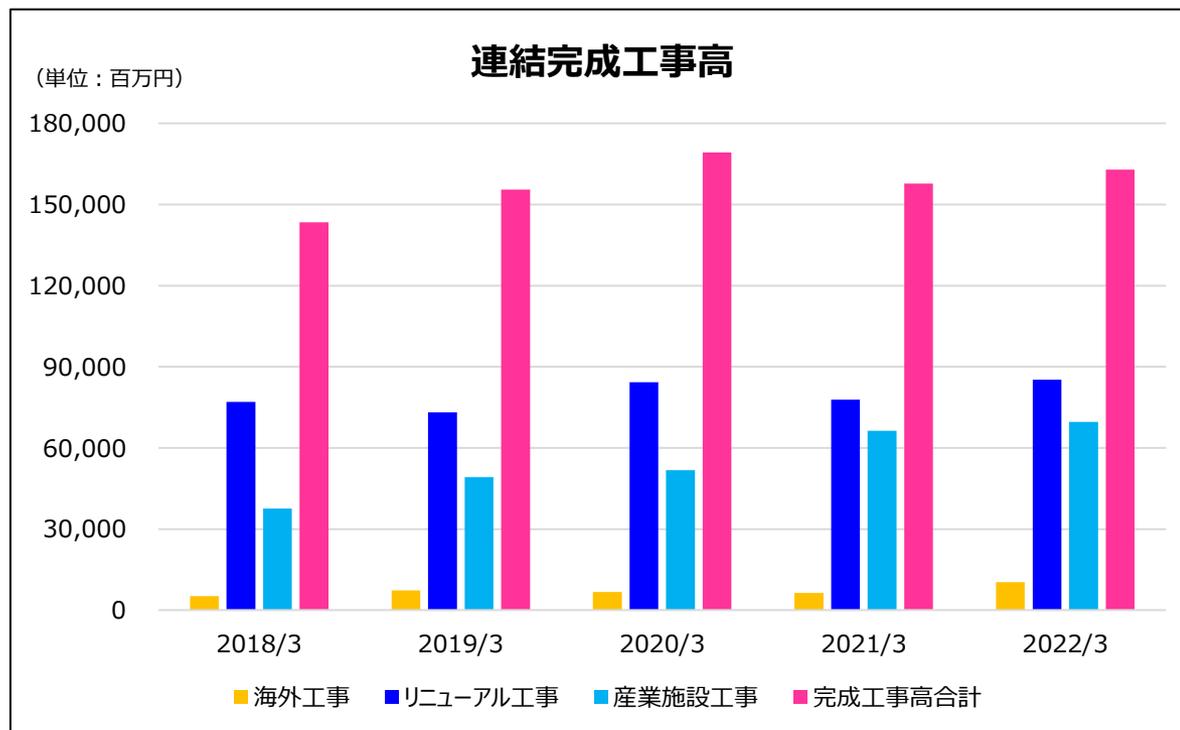


- シンガポールは、2021年末より、ウイズコロナ政策により、新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動規制が緩和され、受注活動と現場運営ともコロナ前の状況に戻りつつあります。その結果、昨年比で受注工事高は増加しました。
- タイは、昨年受注した大型工事が、客先都合による工事中止を受けて受注取消を行い、受注工事高が大きく減少しました。

(単位：百万円)

	2021年3月期		2022年3月期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
完成工事高合計	157,712	100.0%	162,929	100.0%	5,217	3.3%
うち（産業施設工事）	66,327	42.1%	69,629	42.7%	3,302	5.0%
（リニューアル工事）	77,844	49.4%	85,183	52.3%	7,338	9.4%
（海外工事）	6,423	4.1%	10,414	6.4%	3,990	62.1%

※産業施設工事、リニューアル工事、海外工事は、それぞれの工事種類ごとの集計であるため重複しているものも含まれます。

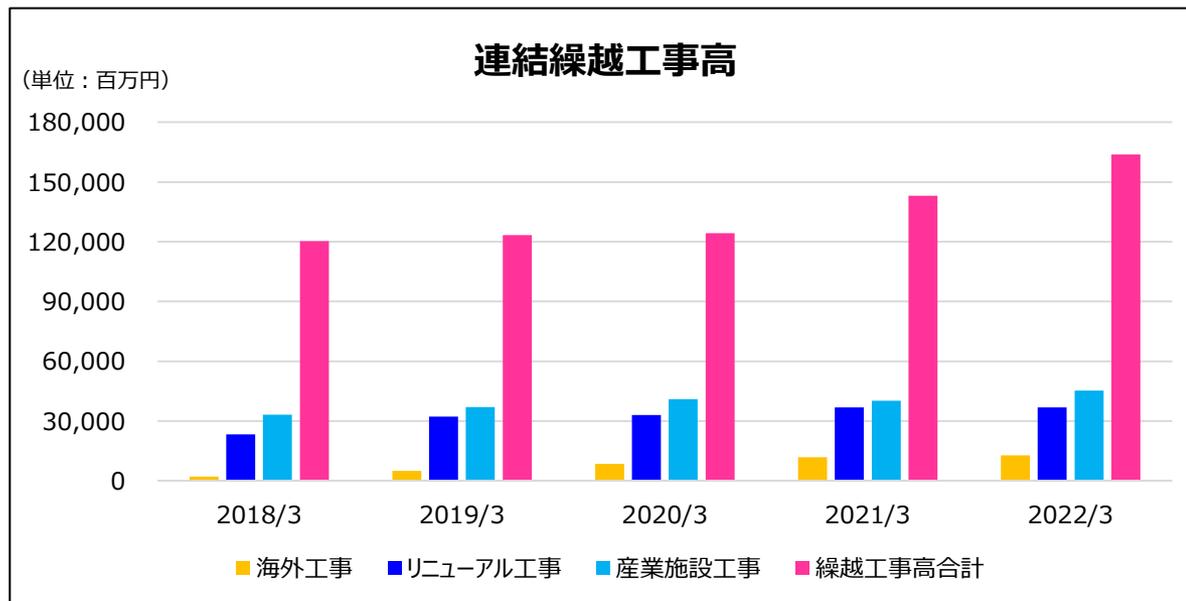


- 当期の完成工事高は、特に工場のリニューアル工事が当期に進捗し、全体として完成工事高は増加となりました。
- これを受け、産業施設工事、リニューアル工事は増加し、また海外工事も増加しました。
- 産業施設工事は、2015年の開示以来、過去最高の完成工事高となっております。
- また、海外工事の完成工事高は、14年ぶりに100億円を超えました。
- この他、空港や医療施設関連の大型工事も完成工事高に寄与しております。

(単位：百万円)

	2021年3月期		2022年3月期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
期首繰越工事高	124,228	—	143,043	—	18,814	15.1%
受注工事高	176,526	—	183,668	—	7,141	4.0%
完成工事高	157,712	—	162,929	—	5,217	3.3%
繰越工事高	143,043	100.0%	163,782	100.0%	20,738	14.5%
うち（産業施設工事）	40,256	28.1%	45,260	27.6%	5,004	12.4%
（リニューアル工事）	32,854	23.0%	36,896	22.5%	4,041	12.3%
（海外工事）	11,866	8.3%	12,839	7.8%	972	8.2%
うち来期完成予定	91,326	—	102,837	—	11,511	12.6%

※産業施設工事、リニューアル工事、海外工事は、それぞれの工事種類ごとの集計であるため重複しているものも含まれます。



- 当期の繰越工事高は、受注工事高が完成工事高を上回り、前期と比べ増加しております。特に、来期完成予定の工事が増加し、来期の業績に寄与します。
- 当期は、過去5年間に於いて最も多い繰越工事高があり豊富な工事量を確保しております。

四半期ごとの実績状況

(単位：百万円)

		2021年3月期	2022年3月期	増減	増減率
受注工事高	4～6月	36,167	44,698	8,531	23.6%
	7～9月	48,489	62,725	14,236	29.4%
	10～12月	37,906	42,695	4,790	12.6%
	1～3月	53,965	33,550	▲20,415	▲37.8%
	4～3月	176,526	183,668	7,141	4.0%
完成工事高	4～6月	34,816	27,257	▲7,559	▲21.7%
	7～9月	37,918	38,523	605	1.6%
	10～12月	38,365	42,477	4,112	10.7%
	1～3月	46,613	54,672	8,059	17.3%
	4～3月	157,712	162,929	5,217	3.3%
営業利益	4～6月	2,281	528	▲1,752	▲76.8%
	7～9月	2,789	2,240	▲549	▲19.7%
	10～12月	2,135	1,292	▲843	▲39.5%
	1～3月	1,549	3,524	1,975	127.5%
	4～3月	8,754	7,584	▲1,170	▲13.4%

- 受注工事高は、4～12月の増加を受け、通期で増加となりました。
- 完成工事高は、下期にかけて工事が進捗し、通期で増収となりました。
- 営業利益は、4～12月まで低調に推移したことを受け、通期で減益となりました。



2022年3月期
通期決算

2023年3月期
通期業績予想

連結通期業績予想

(単位：百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	前期対比 通期	
	通期	今回予想 [通期]	増減	増減率
受注工事高	183,668	193,000	9,332	5.1%
完成工事高	162,929	175,000	12,071	7.4%
完成工事総利益	20,723	23,000	2,277	11.0%
完成工事総利益率(%)	12.7%	13.1%	0.4p	
営業利益	7,584	8,500	916	12.1%
営業利益率(%)	4.7%	4.9%	0.2p	
経常利益	8,095	8,700	605	7.5%
経常利益率(%)	5.0%	5.0%	0.0p	
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,778	6,000	222	3.8%
当期純利益率(%)	3.5%	3.4%	▲0.1%	
自己資本当期純利益率 (ROE)	7.6%	7.6%	0.0p	

業績予想の前提

- 中期経営計画「Stage2030 Phase1《整えるステージ》」に基づくトップラインの拡大目標を受け、受注工事高及び完成工事高は増加する見込みです。
- 完成工事総利益率は、手持ち工事の竣工が相次ぎ、利益改善が見込まれるため上昇する見込みです。
- 完成工事総利益率の上昇ならびに、完成工事高の増加に伴い営業利益も増加する見込みです。
- Phase1《整えるステージ》の2年目として業績予想を達成し、Phase1最終年の2024年3月期につなげてまいります。

株主還元に対する方針

- 利益配当による株主への利益還元を経営上の最重要施策と考え、健全な財務体質の構築に努めております。
- 中期経営計画における数値目標のとおり配当性向30%以上を配当方針としております。

配当の状況

	年間配当金			配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当率 (連結)
	第2四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2021年3月期	45.00	45.00	90.00	1,949	30.8%	2.7%
2022年3月期	45.00	45.00	90.00	1,935	33.3%	2.5%
2023年3月期 (予想)	45.00	55.00	100.00	—	35.7%	—

- 当社は2023年3月4日に創業120周年を迎えます。これもひとえに株主の皆様をはじめ、ステークホルダーの皆様からのご支援の賜物と心より感謝申し上げます。
つきましては、これまでご支援いただきました株主の皆様へ感謝の意を表すため、次年度における当社の配当金は、普通配当90円に創業120周年記念配当10円を加え、1株につき年間100円（中間配当45円、期末配当55円）とさせていただきます。

自己株式取得について

- 株主還元及び資本効率の向上を目的とし、適宜検討してまいります。

2022年3月期
決算説明

中期経営計画の 進捗状況

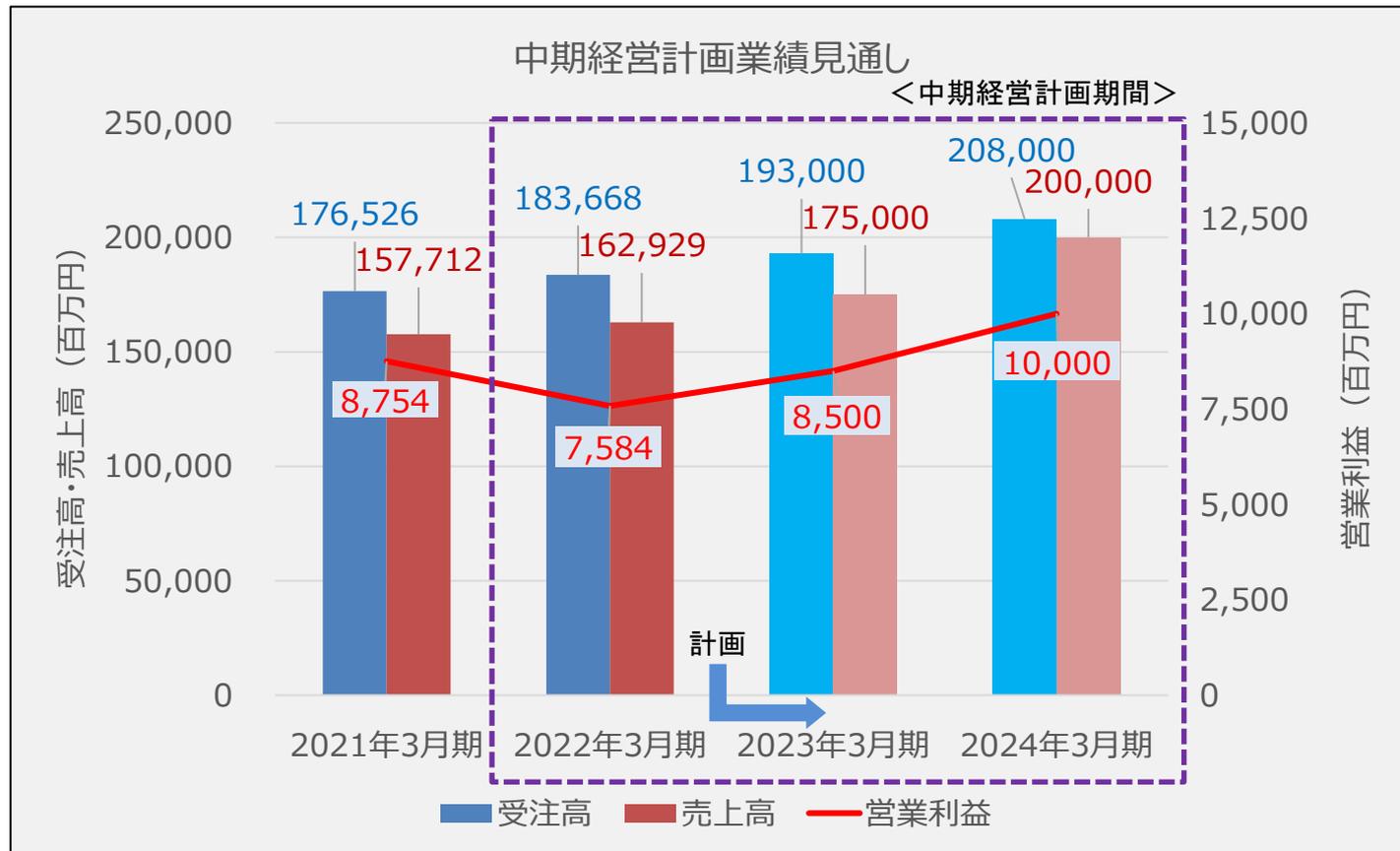
〈整えるステージ〉 FY2021-2023

- 長期ビジョン2030に向け、国内外の基盤を整備強化する《整えるステージ》です。
- 連結売上高の拡大に向けて、新規事業にもチャレンジし、グループ体制を整えます。
- 『空間価値創造企業』を目指し、広くお客さまに価値を届けていきます。

事業戦略	《整えるステージ》の戦略 FY2021-2023	施策の実施状況
基幹事業の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業施設工事の拡大 ・ ストックビジネスの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子デバイス工場、データセンターなど大型化が進む産業施設への技術者の適正配置 ・ 子会社と連携した積極的な保守メンテナンスの受注による顧客囲い込み
海外事業の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外展開の統括基盤整備 ・ 新規拠点の開拓 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各プロジェクトの営業、技術提案、品質管理を国内の本部が支援 ・ 一昨年度新規進出したベトナムにおいてコロナ禍でのリモート営業を強化
技術力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場力の強化 ・ ZEB & IoT事業の拡大 	<p>「サステナビリティへの取り組み」にて詳細説明</p>
新規事業の開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再生医療の実用化への貢献 ・ 環境負荷低減ビジネスの推進 	

中期経営計画の進捗 <受注高・売上高・営業利益>

- 中期経営計画《整えるステージ》は、目標達成の見通し
最終年度 2024年3月期目標 売上高2,000億円 営業利益100億円 に向け、受注を積み上げ
売上高達成に向け、100名規模の採用を継続するとともに、生産性向上のためDXを推進



Construction Visualizer 4D

現場の状況をリアルに捉えた
3Dデータを**手軽**に記録



全方位カメラで現場を撮影



カメラを中心とした
全方位の映像を一度で
記録することが可能

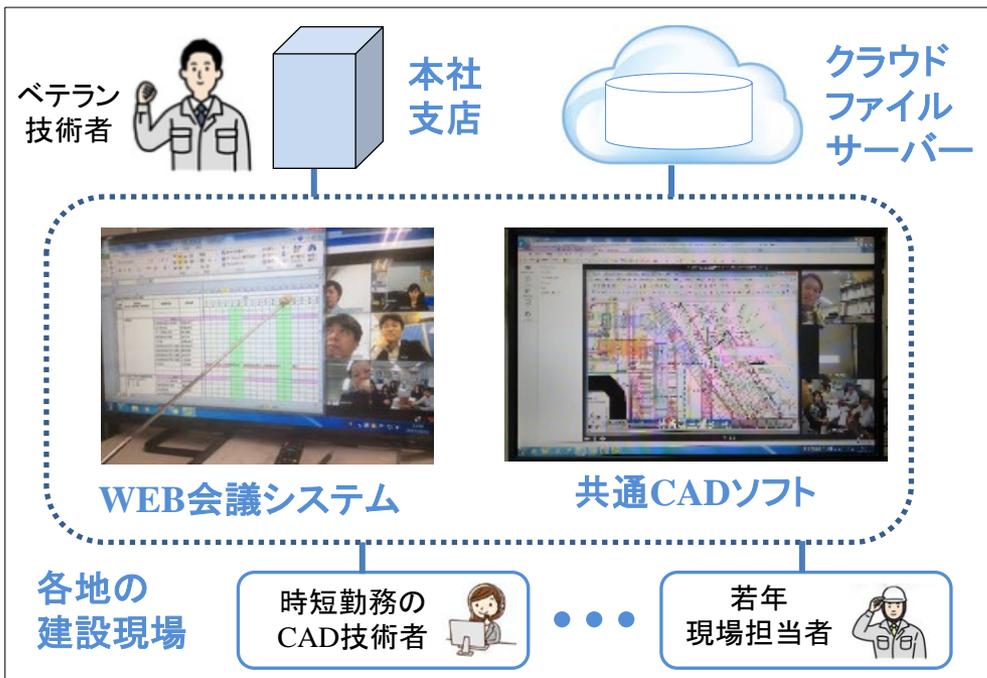
映像データを専用ソフトで処理

現況記録を3Dモデル化



既存図面の**ない改修物件**でも、工事計画に活用

現場支援リモートチーム

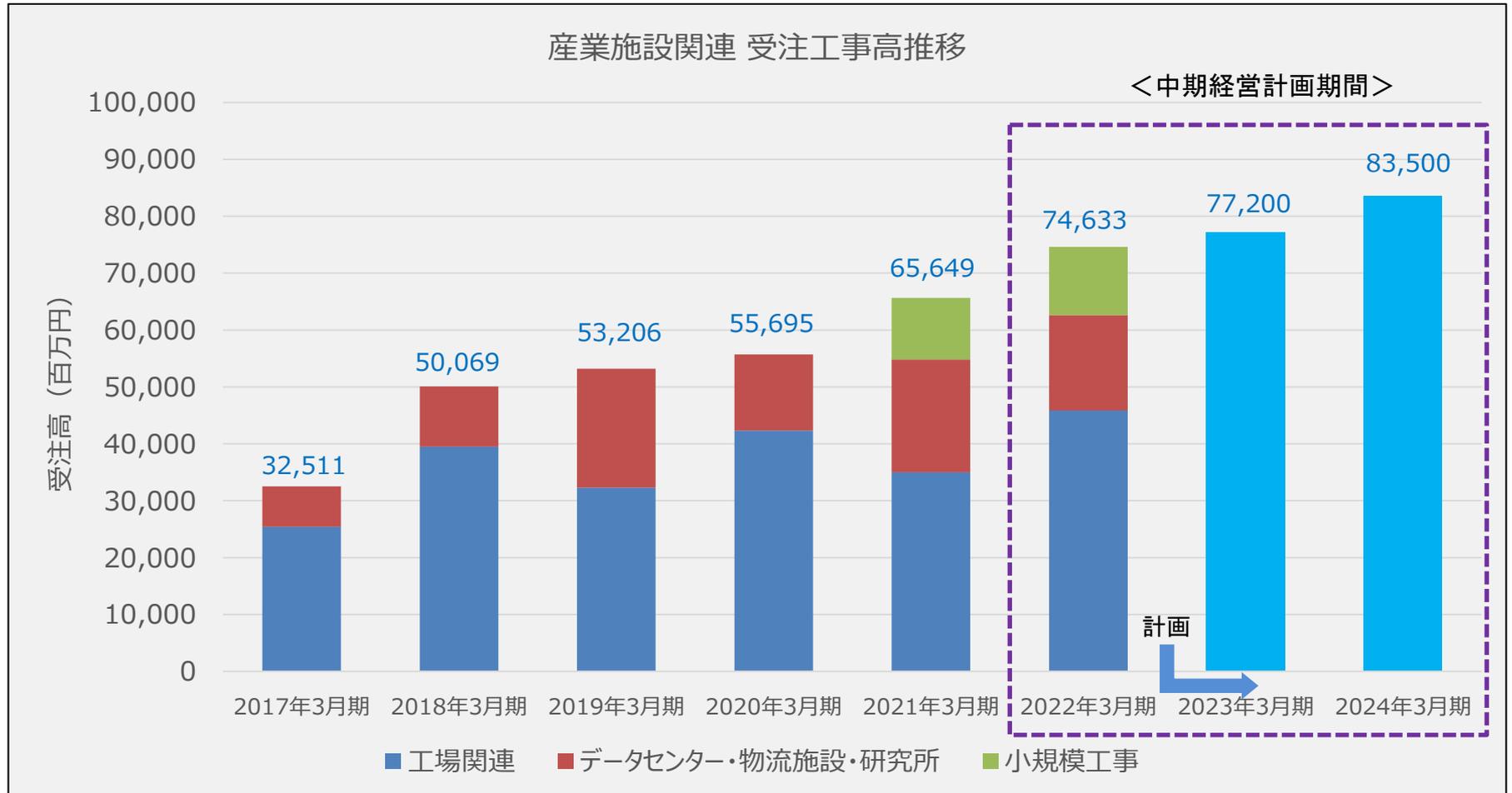


各地に散在する建設現場への本社・支店からの効率的な支援を目的として、Web会議ツール・クラウドファイルサーバー・共通CADソフトを活用し、工程管理や現場相互の図面作成など多面的支援を実施

昨年度実績：339プロジェクト
中・大型プロジェクトの約7割で活用

中期経営計画の重要施策 <産業施設工事の拡大>

- 近年は、電子デバイス工場、データセンター、物流施設の拡大が顕著
- 高度設備に対応できる技術者の増員・育成を図り、産業施設に特化した施工体制の強化として、2022年4月より「エンジニアリング事業部」を発足

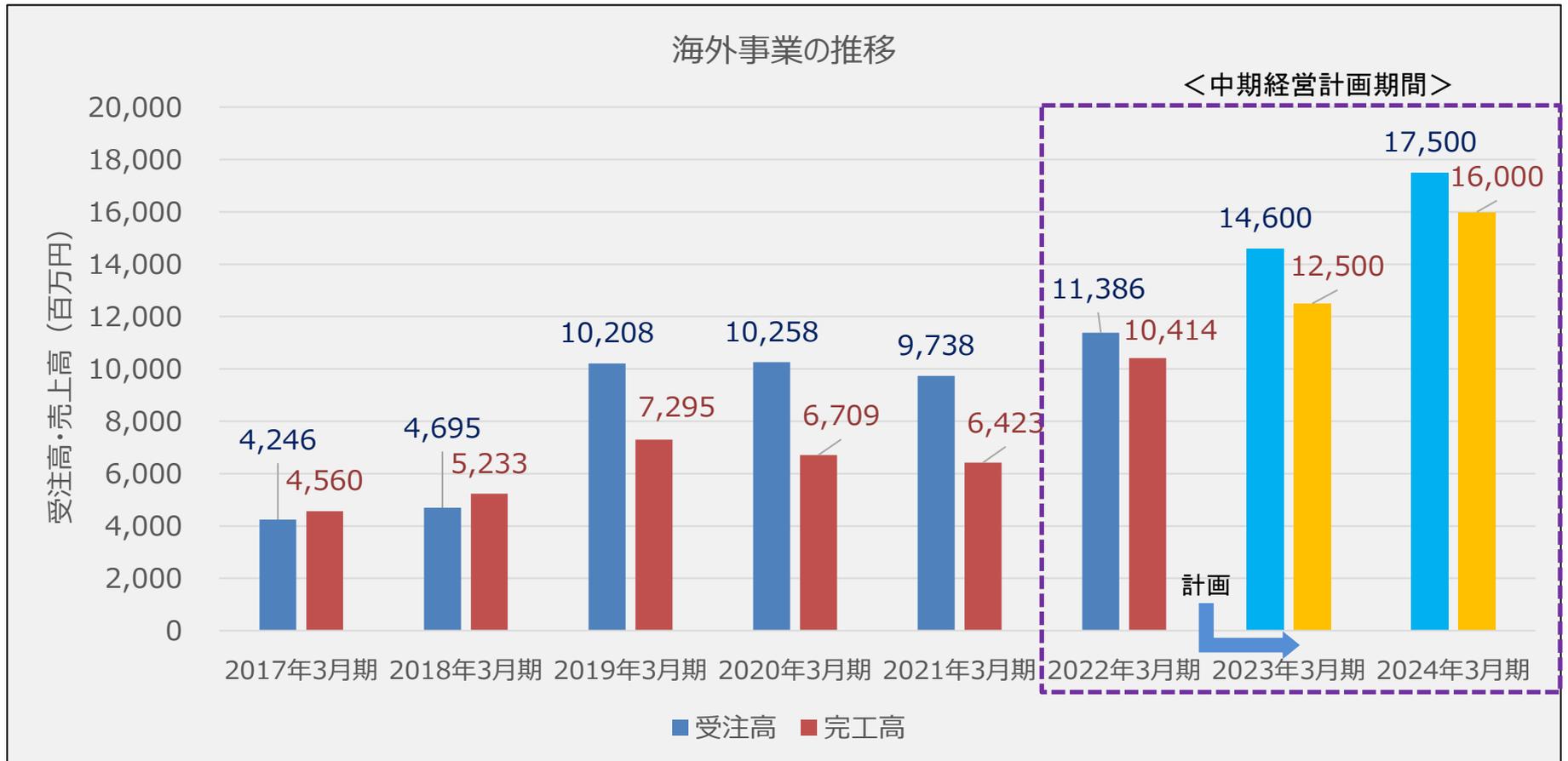


※2021年3月期より工事区分の見直しを行い、産業施設関連の小規模工事を加えています。

中期経営計画の重要施策 <海外事業の強化>



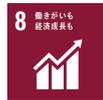
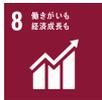
- シンガポール、タイを中心に事業展開、2020年10月ベトナムに、2022年4月台湾に現地法人を設立
- 新型コロナウイルス感染拡大に対する行動規制が緩和されたことにより、完成工事高が順調に伸長
- 中期経営計画2年目（2023年3月期）完成工事高計画 125億円 ⇒ 最終年計画 160億円



2022年3月期
決算説明

サステナビリティへの 取り組みについて

社会課題から新規事業を生み出すCSV事業を目指し、当社技術との親和性が高い地球環境領域とライフサイエンス領域での推進項目を報告

当社のマテリアリティ項目	具体策	SDG s
脱炭素社会への貢献	ZEB関連工事の拡大	 
DXを通じた事業環境の変化への対応	ICT活用技術の現場採用	   
高品質な医療環境の実現	再生医療分野への取り組み	
研究・人材育成を通じたイノベーションと生産性向上	知的財産保有の増大	   
健康・安全に配慮した働きがいのある職場環境	従業員の満足度向上	   
協力会社・サプライヤーとのパートナーシップ	マイスター定着率向上	  

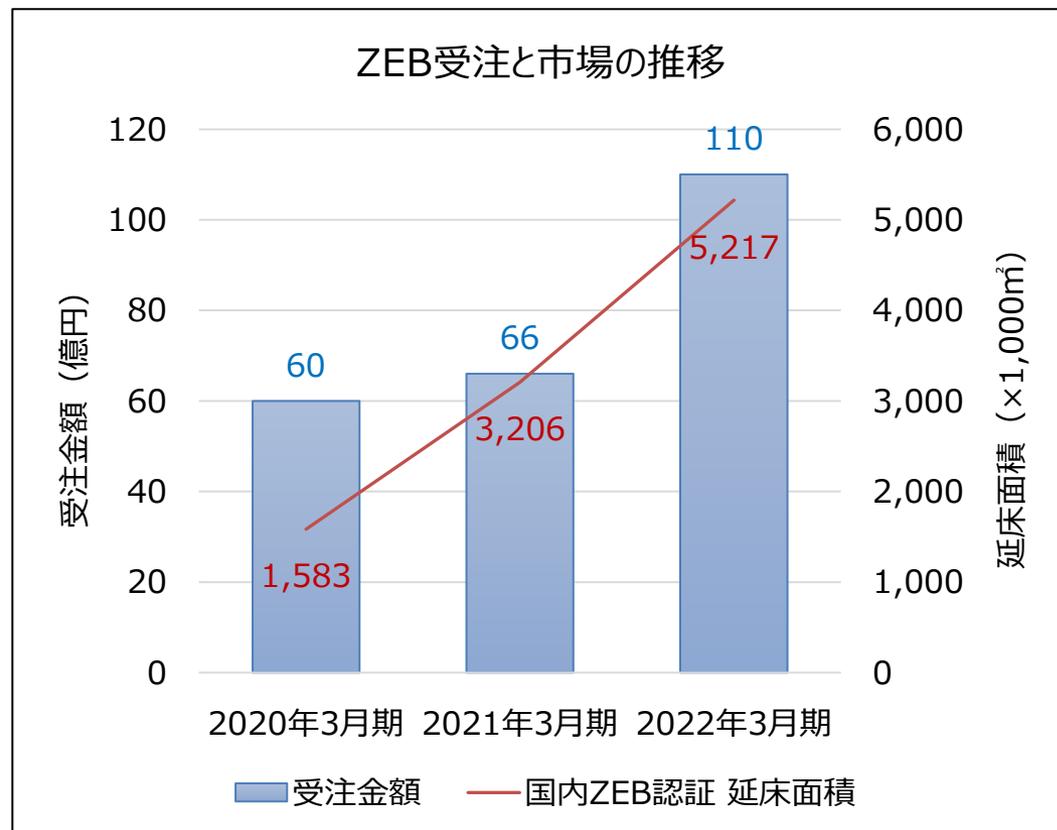
■ 2050年カーボンニュートラルに

加速

- 国際情勢の不安定さからも、エネルギー供給の平準化に貢献するZEBへの期待が高まる
- ZEB政策の動向
 - 国土交通省が設計する合同庁舎などはZEB Orientedを原則導入することが宣言された
 - 建築物の省エネ基準の段階的な強化が検討されている

■ ZEB受注実績

エネフィスシリーズ（自社ビル）などダイダンのZEBへの取り組みが評価され、ZEBに強いダイダンのイメージが定着、その結果受注が市場とともに増加



■ エネフィス北海道に続き、北陸支店が竣工

- 設計から運用まで、**ZEBのライフサイクル**にわたるノウハウの蓄積
- **木材 (CLT)** を活用し、デザインとともに持続可能性を追求した建屋
- ユーザーの健康、快適性を増進し、知的生産性の向上に貢献する**ウェルネスオフィス**の開発
CASBEE-スマートウェルネスオフィス Sランク取得

■ 環境課題の解決に寄与するZEBの普及に向け、自社ビルを活用した検証を推進

- エネフィス四国（カーボンニュートラル賞受賞）
- エネフィス北海道（寒冷地での完全ZEB実現）
- 新北陸支店（5月竣工）
テーマ『伝統的なまちなみと調和する革新的なオフィス』



2022年5月竣工の北陸支店外観
「まちなみと調和」がデザインテーマ



オフィス内観
木材を活用し、ウェルネスを追求

■ 新しいコンセプトのCPF※の構築

※CPF：再生医療用の細胞を加工するクリーンルーム



慶應義塾大学病院
(血液 (キムリア) など)



クオリップス
(心筋)



三重大学
(がん (CAR-T))

再生医療分野の著名物件の施工実績とこれまでに培ったエンジニアリング力で、顧客ニーズに適した施設を提案

■ 有力な周辺サービスの準備とアライアンス構築

ガイアバイオメディシン (GBM) 社が開発したがん治療細胞の製造受託に向けて、**セラボ殿町に受託製造用CPFを構築**
さらに、関連子会社で細胞製造の専門スタッフを採用し、製造体制を構築中

発信力のあるユーザーの
CPFの高評価と口コミ
により引き合い拡大

がん、網膜など**早期市場拡大**が
望める分野に**アプローチ**

2030年1兆円市場での
CPFシェア確立

ベンチャー企業との
強固な連携による
事業領域拡大

再生医療向け
細胞製剤製造受託**サービス**に参入

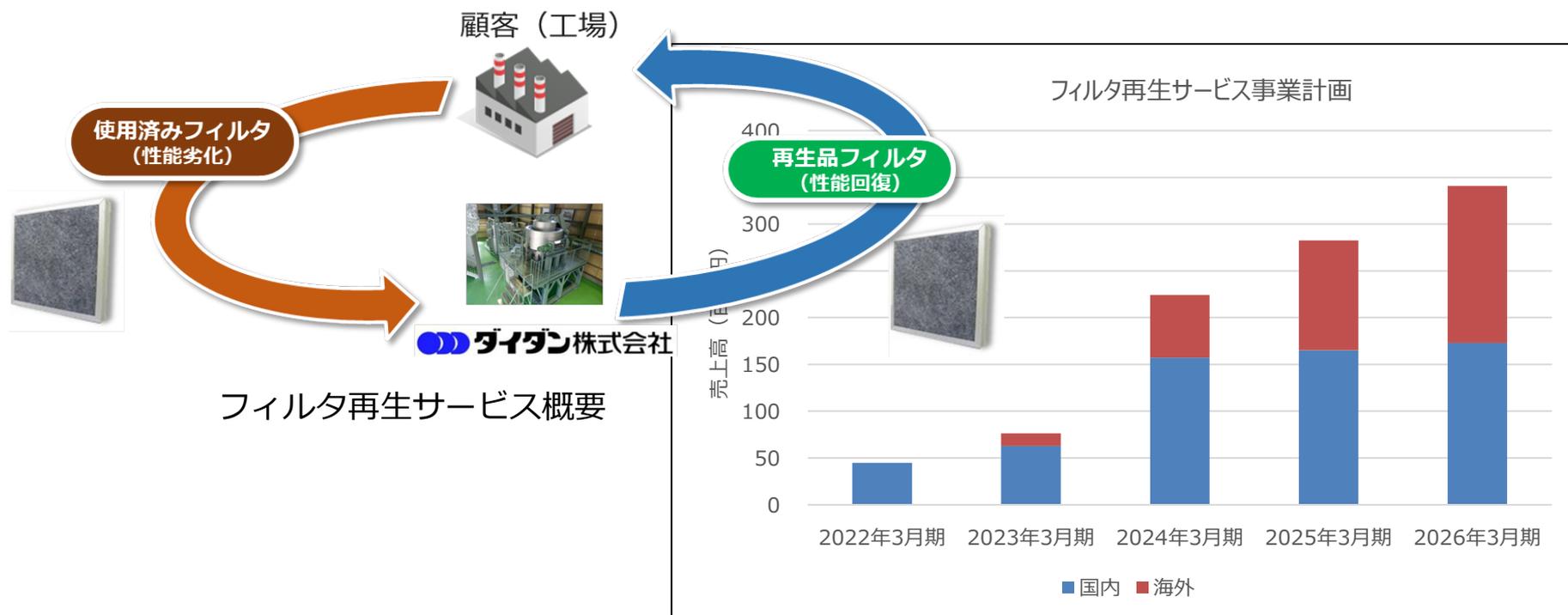
CPF・機器・サービスで
2030年150億円を目指す

廃棄物削減 フィルタ再生事業

- 環境問題の解決を目指したCSV事業創出として、当社オンリーワン技術「超臨界CO2再生技術」を用い、半導体製造装置用エアフィルタの再生サービス事業を拡大する

➤ 国内だけでなく、海外も含めた廃棄物削減・CO2排出削減に貢献

2022年4月に台湾現地法人を設立



Environment

- TCFD提言への賛同

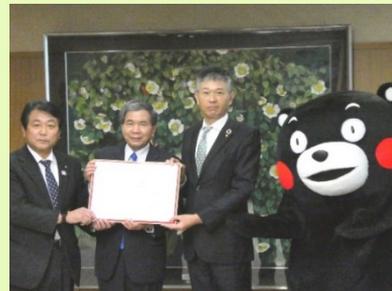


- FTSE Blossom Japan Relative Index 認定



**FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index**

- 「ダイダンの森林づくり」協定の締結



2022年3月23日
©2010熊本県くまモン

2022年3月末現在
森づくり協定地

- ・北海道
- ・埼玉県
- ・三重県
- ・石川県
- ・滋賀県
- ・岡山県
- ・熊本県

- 本社、支店などオフィスへのグリーン電力の導入



Social

- 健康経営優良法人2022 (大規模法人部門) を取得



- えるぼし認定において二つ星を取得



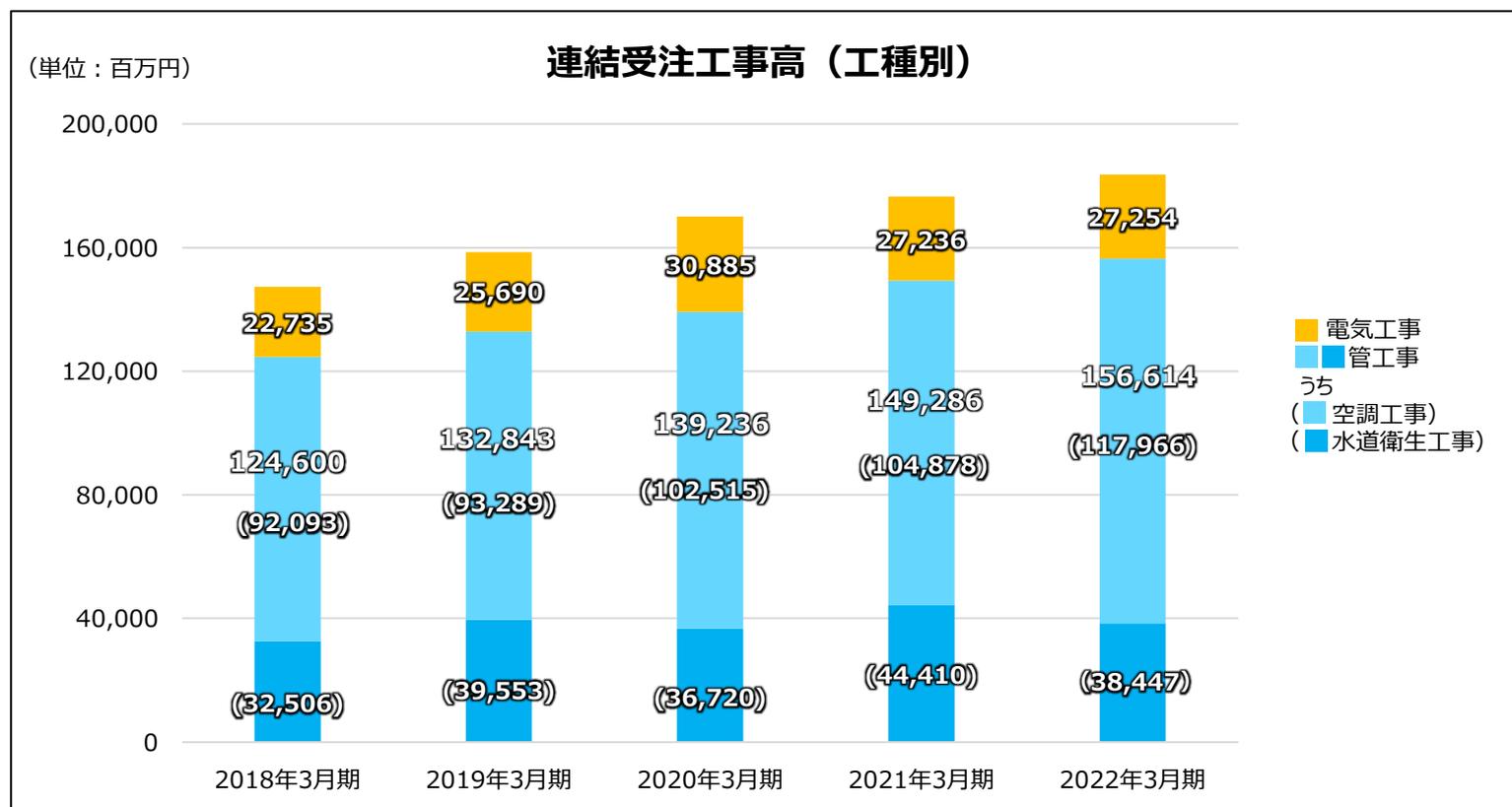


〈参考〉
DATA FILE
〔通期〕

連結受注工事高（工種別）〔通期〕

(単位：百万円)

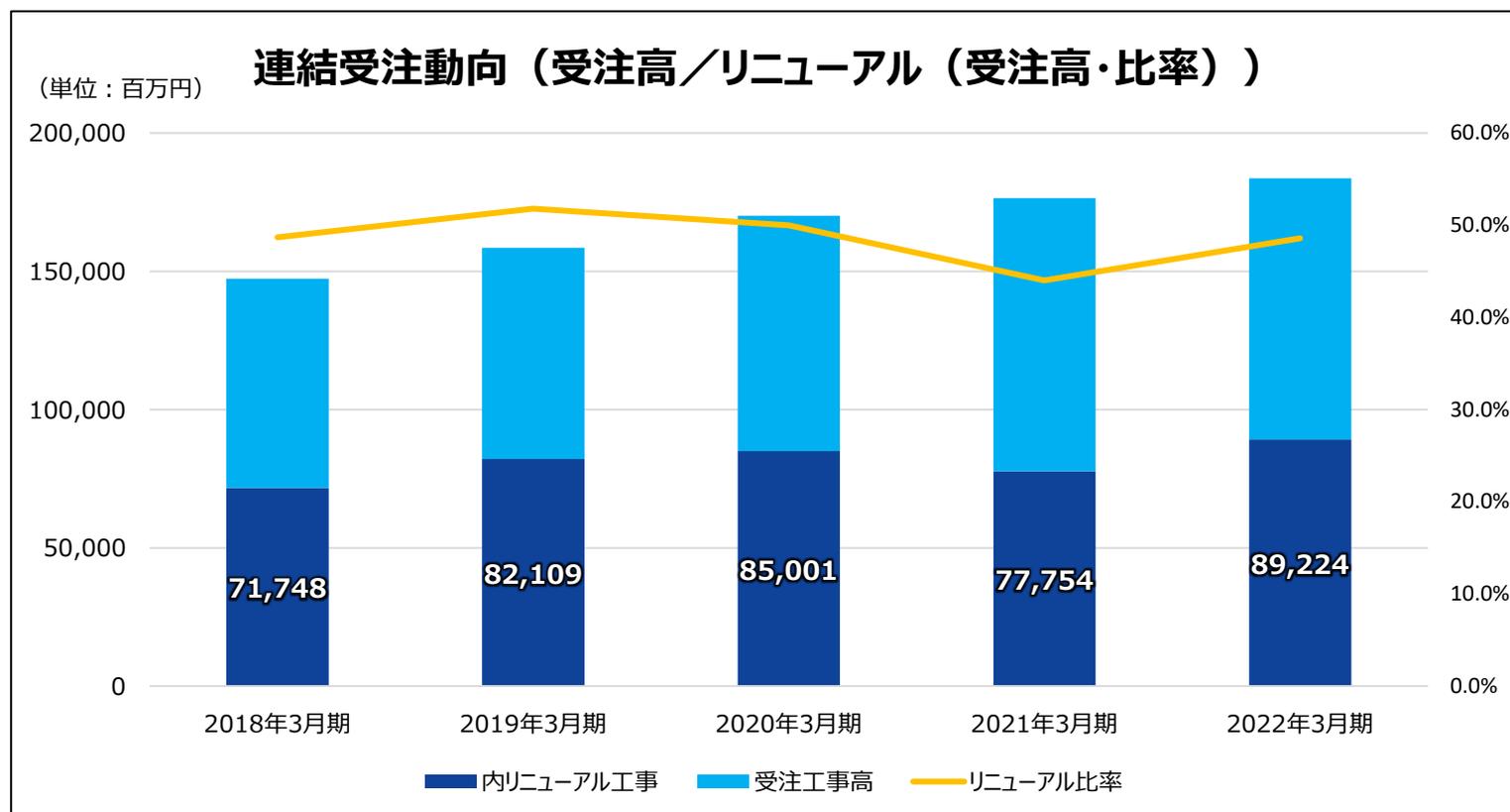
		2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
電気工事		22,735	25,690	30,885	27,236	27,254
管工事	空調工事	92,093	93,289	102,515	104,878	117,966
	水道衛生工事	32,506	39,553	36,720	44,410	38,447
	小計	124,600	132,843	139,236	149,289	156,414
合計		147,335	158,533	170,121	176,526	183,668



連結受注動向（受注高／リニューアル）〔通期〕

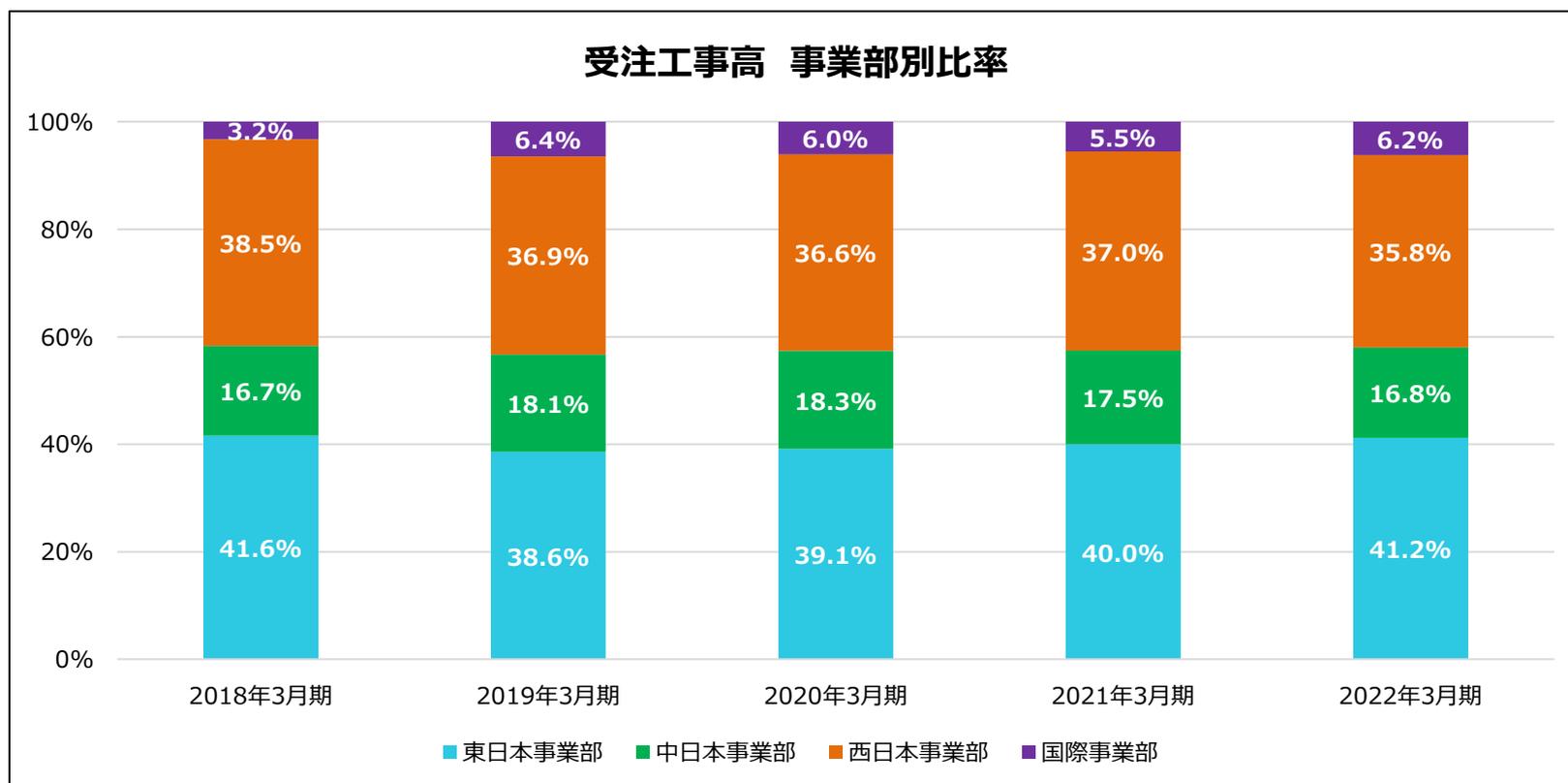
（単位：百万円）

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
受注工事高	147,335	158,533	170,121	176,526	183,668
リニューアル工事	71,748	82,109	85,001	77,754	89,224
リニューアル比率	48.7%	51.8%	50.0%	44.0%	48.6%



受注工事高比率

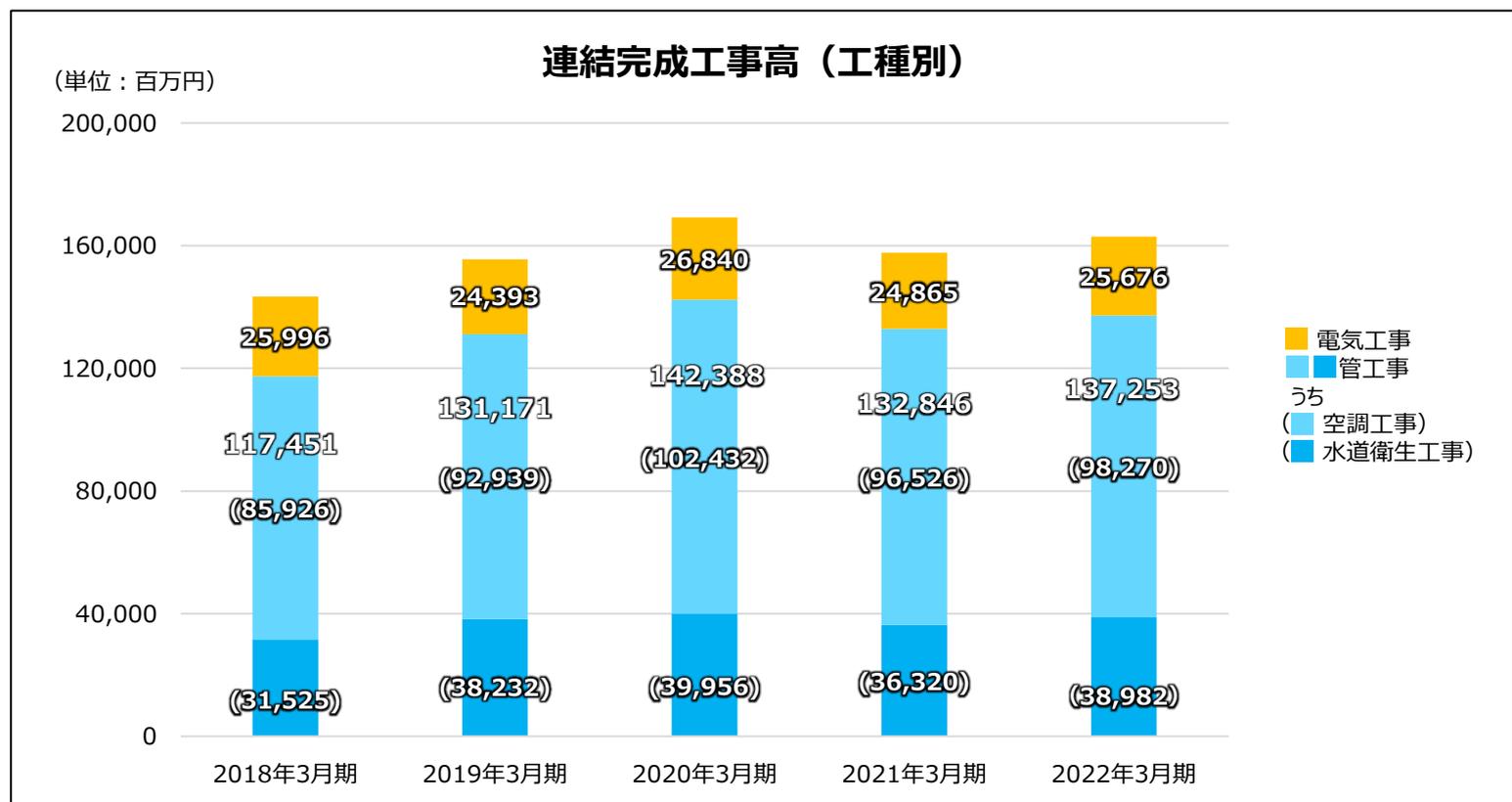
	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
東日本事業部	41.6%	38.6%	39.1%	40.0%	41.2%
中日本事業部	16.7%	18.1%	18.3%	17.5%	16.8%
西日本事業部	38.5%	36.9%	36.6%	37.0%	35.8%
国際事業部	3.2%	6.4%	6.0%	5.5%	6.2%



連結完成工事高（工種別）〔通期〕

(単位：百万円)

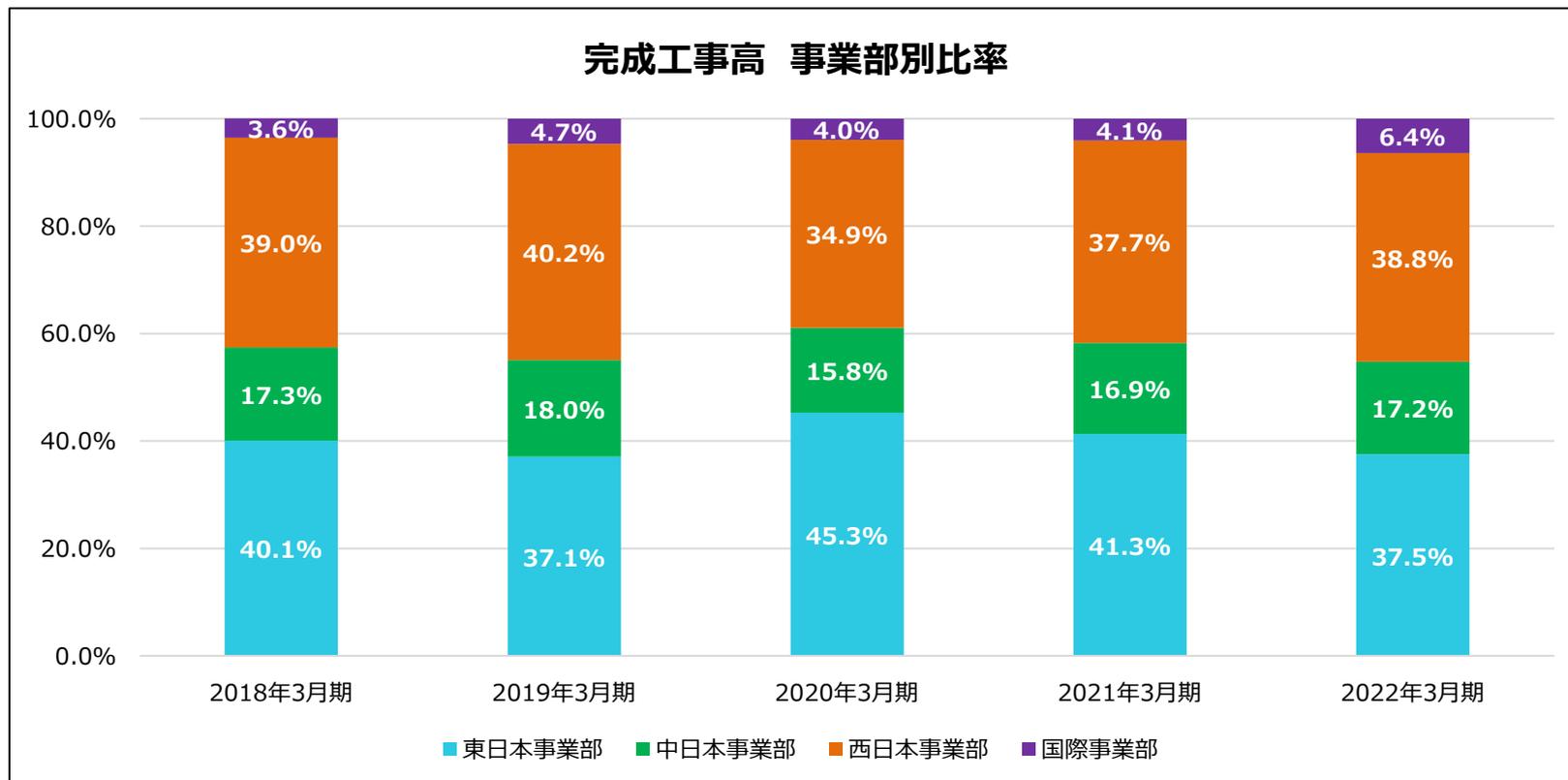
		2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
電気工事		25,996	24,393	26,840	24,865	25,676
管工事	空調工事	85,926	92,939	102,432	96,526	98,270
	水道衛生工事	31,525	38,232	39,956	36,320	38,982
	小計	117,451	131,171	142,388	132,846	137,253
合計		143,448	155,565	169,229	157,712	162,929



連結事業部別完成工事高比率〔通期〕

完成工事高比率

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
東日本事業部	40.1%	37.1%	45.3%	41.3%	37.5%
中日本事業部	17.3%	18.0%	15.8%	16.9%	17.2%
西日本事業部	39.0%	40.2%	34.9%	37.7%	38.8%
国際事業部	3.6%	4.7%	4.0%	4.1%	6.4%



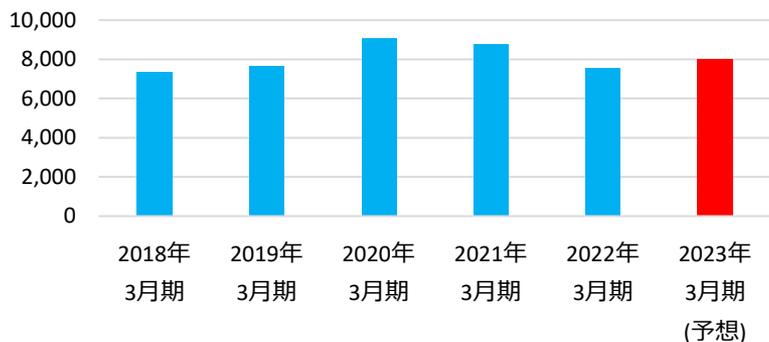
連結業績利益（営業／經常／当期）〔通期〕

(単位：百万円)

	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年3月期 (予想)
営業利益	7,385	7,661	9,063	8,754	7,584	8,500
經常利益	7,674	8,057	9,282	9,262	8,095	8,700
当期純利益	5,109	5,464	6,399	6,318	5,778	6,000

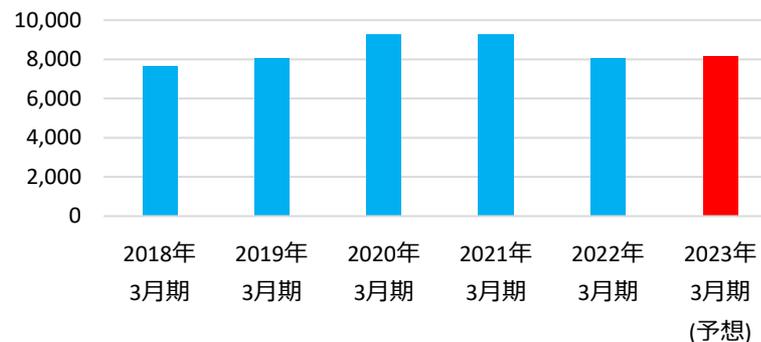
(単位：百万円)

営業利益



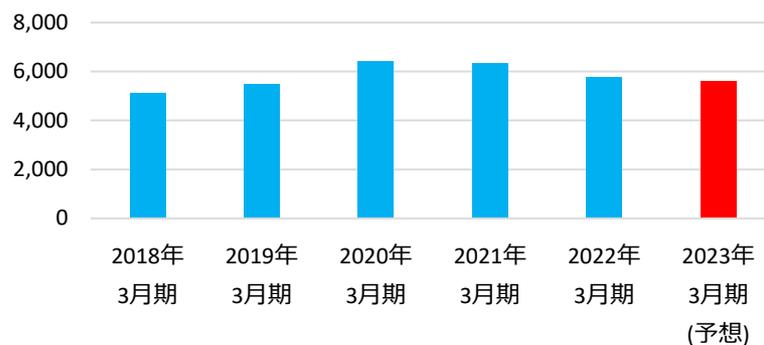
(単位：百万円)

經常利益



(単位：百万円)

当期純利益



免責事項

当社が開示する今後の計画、戦略などの将来の業績に関する見通しは、発表時点で合理的であると判断する前提に基づき作成しています。従って、様々な要因により、実際の業績が予想と異なる結果になる場合があります。

I Rに関する問合せ先

経営企画室 コーポレートコミュニケーション部：電話 03-5276-4568

〒102-8175 東京都千代田区富士見2-15-10